

資料の刊行

(1993年4月～6月)

<資料題名(発行年月日)>

<担当者>

○人口問題研究所年報 平成4年度(平成5年5月)

Working Paper Series

○No.16(1993. 6)

Human Population Reproduction via First Marriage稲葉 寿

第1回人口問題審議会「国際人口・開発会議に関する特別委員会」

第1回人口問題審議会「国際人口・開発会議に関する特別委員会」は、平成5年6月2日(水)午前10時30分より12時まで、中央合同庁舎特別第1会議室において開催された。委員及び専門委員の紹介の後、委員長互選により、河野綱果委員が委員長に選出された。その後、厚生省大臣官房政策課長から「国際人口・開発会議について」、人口問題研究所人口政策部長から「報告書の構成(案)について」の報告がそれぞれあり、意見交換が行われた。

日本人口学会第45回大会

日本人口学会(会長:濱英彦)の第45回大会は、平成5年6月4日(金)と5日(土)の両日にわたり、東北福祉大学において開催された。本大会は、東北福祉大学の辻義人教授を運営委員長とする大会運営委員会の多大な努力により、盛会に行われた。会員の参加は約160名にもなり、活発な討議がなされた。

本大会のシンポジウム、共通論題、自由論題の題名及び報告者は次のとおりである。

○シンポジウム

「人口高齢化と福祉」

<座長> 辻 義人(東北福祉大学)
岡田 實(中央大学)

[報告]

1. 人口高齢化と家族の変化.....兼清 弘之(明治大学)
2. 福祉マンパワーの現状と見通し.....大坂多恵子(仙台基督教育院)
3. 経済と福祉——スウェーデンの経験と教訓.....丸尾 直美(慶応義塾大学)

<討論者> 赤沢 昭三(東北学院大学)
岡崎 陽一(日本大学)

○共通論題 [A部会]

「徳川時代の人口と社会経済史」

<組織者> 斎藤 修(一橋大学)

<座長> 鬼頭 宏(上智大学)

[報告]

1. 日本農村における出生力・母乳哺育、乳児死亡の相互関連について.....友部 謙一(徳山大学)
2. 徳川後期の米価変動と出生率.....浜野 潔(慶応義塾女子高等学校)
3. 東北一農村における世帯の変遷.....木下 太志(江南女子短期大学)

<討論者> 高橋 眞一(神戸大学)
坪内 良博(京都大学)

○共通論題 [B 部会]

「発展途上国人口の出生力」

<組織者> 大友 篤 (日本女子大学)

<座長> 早瀬 保子 (アジア経済研究所)

[報告]

1. アジア人口の出生力……………安藏 伸治 (明治大学)
2. ラテンアメリカ人口の出生力……………坂井 博通 (清泉女学院短期大学)
3. アフリカ人口の出生力……………小島 宏 (人口問題研究所)

<討論者> 河野 稠果 (麗澤大学)
大淵 寛 (中央大学)

○自由論題報告

1. 人類生誕以降の累積出生数について……………大淵 寛 (中央大学)
2. コウホート出生力と Cigno モデル……………大谷 憲司 (関西大学)
3. 人口性比の考察……………河野 稠果 (麗澤大学)
4. 家族形成と出生力水準——沖縄県の事例……………西岡 八郎 (人口問題研究所)
5. 最近における出生低下の経済学的分析……………小川 直宏 (日本大学)
6. 年齢別出生率の推計システム……………金子 隆一 (人口問題研究所)
7. 初婚によって再生産される人口のモデルとその応用……………稲葉 寿 (人口問題研究所)
8. 死亡延年数による寿命の男女差の検討
——1990年日本人について、死因別・年齢別検討——……………村田 春枝 (明治生命保険相互会社)
9. 明治23年生まれの日本人の世代生命表……………飯淵 康雄 (琉球大学)
10. 世代マップによる疾病の世界像 (2)……………池田 一夫 (東京都立衛生研究所)
倉科 周介 (東京都立衛生研究所)
11. 韓国の人口成長率の低下とその経済的帰結……………李 相蓮 (中央大学)
12. 出生力と女子労働力参加——インド・ケーララ州の事例——……………西川由比子 (尚絅女学院短期大学)
13. パプアニューギニア・コンビオ族の出生率と人口移動の経済的变化……………大塚柳太郎 (東京大学)
梅崎 昌裕 (東京大学)
14. 人口・食糧・エネルギーの研究——日本・中国……………笠原 弘義 (早稲田大学)
15. 1982年以前の中国人口に関する一考察——Mortpak (国連) の利用
および Demographic Discontinuity の立場から——……………南條 善治 (東北学院大学)
黄 荣清 (北京经济学院人口所)
16. 中国の人口政策と経済発展……………尹 豪 (中央大学)
17. スウェーデンにおける出生率変化と家族政策……………津谷 典子 (日本大学)
18. カナダ日系移民と日本の人口政策……………吉田 忠雄 (明治大学)
19. フランスの人口政策……………岡崎 陽一 (日本大学)
20. 人口転換の重層構造と経済成長——アジアを対象として——……………黒田 俊夫 (日本大学)
21. ファジィ回帰分析による総人口推計について……………新田 時也 (垂細垂大学)
22. 拡大 Logistic 関数による人口推計について……………坂井 貞彦 (愛知淑徳大学)
23. きょうだい数を用いた安定人口増加率の推計方法について……………鈴木 透 (人口問題研究所)
24. 世帯主のコーホートに着目した家族類型別世帯数推計手法……………大江 守之 (人口問題研究所)
25. 高齢者の世帯状況の将来推計……………廣嶋 清志 (人口問題研究所)
26. 戦後日本の国内人口移動の変化とその要因……………渡辺真知子 (嘉悦女子短期大学)
27. 国内人口移動の逆流のタイムラグ……………阿部 隆 (宮城学院女子大学)
28. 年齢(5歳階級)別にみた東京大都市圏の人口移動と居住パターン変化……………中川 聡史 (人口問題研究所)
29. 近世畿内村落の人口動態分析——和泉国南王子村の場合——……………松田 武 (大阪大学)
30. 江戸後期一農村の宗門改帳……………石原 正令 (関東学園大学)
31. 経営人口学における事例研究：消費者と葬祭業 (2)……………今井 孝平 (中央大学)
32. 結婚の経済モデルと仲人の経済性……………松下敬一郎 (竜谷大学)

33. 過剰人口と経済発展……………山口三十四(神戸大学)
 34. 単身生活者の動向……………山本千鶴子(人口問題研究所)
 35. 高齢化にともなう「生きがい」について……………吉井 弘(千葉商科大学)

なお、明年の第46回大会は、明海大学において開催される予定である。

国際人口学会仙台会議

国際人口学会の成人死亡研究委員会(委員長: Alan Lopez)は、仙台市と日本エイジング総合研究センターの協力を得て、6月21日から25日の5日間、仙台国際センター会議場において、「高齢化人口における疾病と死亡の趨勢(Health and Mortality Trends among Elderly Populations: Determinants and Implication)」と題する国際会議を開催した。会議は以下に掲げる6つの分科会から構成され、それぞれ4～5名の研究報告と討議が行われた。

1. The Fourth Stage of Mortality Transition: Trends in Mortality and Survival among the Elderly (座長: Alan Lopez, 報告者: G. Myers, S. H. Preston, T. Martelin, A. Kalache, T. Buettner, 討論者: S. J. Olshansky, S. Koskinen)
2. Morbidity and Disability Trends among the Elderly (座長: Borbor Kandeh, 報告者: M. Chamie, J. Robine, E. Heikkinen, M. Viitanen, 討論者: A. Kern, R. Suzman)
3. Role of Social and Biological Factors in Old Age Mortality (座長: Juan Chackiel, 報告者: S. J. Olshansky, Y. Saito, P. Laslett, E. Grundy, A. Pinnelli, 討論者: J. Vaupel, J. Legare)
4. Diseases and Conditions Affecting the Health and Survival of the Elderly: Demographic and Epidemiological Analysis (座長: Tapani Valkonen, 報告者: K. Khaw, M. Coleman, A. Svanborg, M. Allard, 討論者: A. Kalache, S. Maggi)
5. Projecting the Health and Survival of Elderly Populations (座長: Ian Timaeus, 報告者: F. V. Poppel, G. Caselli, J. Vaupel, J. E. Dowd, 討論者: J. Wilmoth, J. Vallin)
6. Aging and the Health of the Elderly in Japan: A Case Study (座長: 河野稠果, 報告者: J. Wilmoth, 高橋重郷, 重松峻夫, 佐々木秀隆, 府川哲夫, 討論者: N. Goldman, G. Myers)
7. Policy Implications of Morbidity Trends and Increasing Survival at Advanced Ages (座長: G. Caselli, 報告者: A. Kern, A. Golini, 小野寺伸夫, S. O. Daatland, 討論者: R. Suzman, E. Heikkinen)

なお、この会議には、54名の参加者ならびに多数の傍聴者の参加によって活発な討議が行われた。この会議の成果の一部は、オックスフォード大学より International Studies in Demography のシリーズの一つとして刊行される予定になっている。

最後に、この会議は、前人口問題研究所所長 河野稠果(現麗澤大学教授)先生ならびに日本エイジング総合研究センターの多大なご苦勞とご尽力によって開催されたもので、この会議の組織者の方々に改めて謝意と敬意を表したい。

(高橋重郷記)